

# 夏季におけるLAハイブリッドユリの適品種選定（7月出荷）

## 1. はじめに

近年、日高地方を中心として耐候性ハウスが増加し、花きの周年栽培が可能となってきました。また、農産物直売所も各地で開設され、周年出荷できる品目が望まれています。

このことから、LAハイブリッドユリの7月出荷作型に適する品種を選定しました。

## 2. 試験方法

供試品種は「メノルカ」、「アルガーヴ」、「ケルソー」、「ロイヤルホール」、「ティマル」、対照品種は「ロイヤルトリニティ」を用いました。

氷温凍結球を15℃で6日間解凍および芽出し処理し、2005年6月9日に定植しました。栽植密度はベッド幅90cm、株間15cm、条間12cmの6条植えとしました。元肥はN:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=2.0:2.0:2.0kg/a、追肥はN:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=1.0:1.0:1.0kg/a施用し、定植時から採花終了時まで遮光率60%で管理しました。

## 3. 試験結果

草丈は対照品種の「ロイヤルトリニティ」に比べて「メノルカ」は大きく、「ロイヤルホール」は同程度、他の3品種は小さくなりました（表1）。

一次花蕾数は対照品種の「ロイヤルトリニティ」に比べて「メノルカ」、「アルガーヴ」は同程度、他の3品種は若干少なくなりました。

一方、散形花序の発生は「ケルソー」で100%、「ロイヤルトリニティ」で70%、「アルガーヴ」で63.3%、「メノルカ」で60%と多発したが、「ロイヤルホール」、「ティマル」は極めて少なく3.3%でした。

採花開始日は対照品種の「ロイヤルトリニティ」が最も早く、他の5品種が若干遅れました（表2）。また、到花日数は「ティマル」が最短で、他の5品種は1～2日長くなりました。

上物率は「ケルソー」、「ティマル」が

100%と高く、他の4品種が若干低下しました（表2）。

## 4. おわりに

以上のことから、7月出荷作型には、草丈が対照品種と同程度で、散形花序の発生が

極めて少ない「ロイヤルホール」、および草丈が対照品種より大きく、散形花序の発生が対照品種より若干少ない「メノルカ」が有望と考えられました。

（園芸部 紺谷 均）

表1 7月出荷作型における生育特性

品種名	球周 (cm)	草丈 (cm)	茎長 <sup>2</sup> (cm)	茎径 (mm)	切り花重 (g)	一次花蕾 数(個)	二次花蕾 数(個)	散形花序発 生率(%)
メノルカ	14-16	91.3	80.2	9.7	140.3	5.9	0	60.0
アルガーヴ	14-16	77.5	65.0	9.2	113.2	5.9	0	63.3
ケルソー	14-16	73.2	60.3	9.0	95.1	3.9	0	100
ロイヤルホール	14-16	82.3	67.4	9.2	108.8	3.4	0	3.3
ティマル	16-18	71.6	60.4	9.7	116.4	4.4	0	3.3
ロイヤルトリニティ	16-18	87.0	75.5	9.7	119.8	6.1	0	70.0

注) 2005年6月9日定植

<sup>2</sup>: 総状花序は花穂中央まで、散形花序は花穂までの長さ。

表2 7月出荷作型における開花特性

品種名	花色 (JHSCC)	採花開始日 (月/日)	到花日数 (日)	上物率 <sup>1</sup> (%)
メノルカ	明橙 (1604)	7/25	47 ± 0.2 <sup>2</sup>	95.0
アルガーヴ	淡ピンク (0102)	7/25	46 ± 0.1	90.0
ケルソー	黄白 (2201)	7/22	46 ± 0.1	100
ロイヤルホール	明橙黄 (2204)	7/22	47 ± 0.1	93.3
ティマル	白 (-01)	7/25	42 ± 0.3	100
ロイヤルトリニティ	鮮橙 (1605)	7/19	45 ± 0.2	96.7

<sup>2</sup>平均値±標準誤差

<sup>1</sup>切り花長60cm以上で3輪以上の切り花